

アジア価値共創の新時代へ

AIBS 学会長 池島 政広

日本は、平成の時代の幕を引き、5月から新たな元号の下に新時代に入っております。平成の最後の時期に、日EU・EPA や TPP11 で貿易や投資などの自由な動きが始まる一方、トランプ政権の出現による自国第一主義の台頭で、国際社会は混乱の様相を呈しております。しかも安全保障問題も絡み、より複雑で不透明感が増して、未来の社会が見通せなくなってきております。この混乱を乗り越える役割を担う世界のリーダーは、各国の思惑もあり、平和と繁栄に向けた品格を持った理念と行動が見えない状況にあります。日本を見ても、株高傾向の経済ではあるものの、企業で働く人々や生活者の真の豊かさは一体どうなっているのかと首を傾げたくありません。

このような状況だからこそ、国際協力を一層推し進めて、各々の国の人々がより充実した生活を送れるようにしていかなければなりません。現実的に、この動きを、経済を中心に牽引していくのが企業であります。各々の企業は独自の確固たる経営理念を持って、社会の中での存在意義を高めていく必要があります。顧客となりうる人々に対して豊かな生活を送れるよう商品・サービスや生活インフラを提供していくことです。

とりわけ、発展途上にある国が多いアジアで必要になってまいります。少子・高齢化が確実に進んでいる日本の企業が飛躍的に発展するには、この成長著しいアジアの市場を開拓していくことが不可欠になってまいります。しかしながら、アジアの地域では各々働く人々の価値観や消費者行動などが異なりますので、その知見を持っている現地の人々や企業との連携が必要となってくるでしょう。日本国内で売られている商品をそのままアジアの地域に投入してもなかなか上手くいかない話はよく聞かれます。アジアでのビジネス展開を効果的にしていくには、進出先国の経済、文化、社会、商慣習などをよく知っている人々や企業と連携して、顧客を引きつける新たな価値を共に創り出していくことが大事になってまいります。正に、アジアでの価値共創の時代に入ってきたこととなります。

企業としては、“アジアでの価値共創戦略”の実践であります。この戦略行動において大事なことは三点あります。第一に、「アジアとの共生」であります。これは、企業を牽引するトップの基本的な考え方として、個別の利益を超えて、アジアの繁栄を第一に志向することです。事実、長年の我々の実証研究においても、このような企業の経営成果は高くなっております。アジアの中での存在意義のない企業は成長できません。第二に、「ビジネスモデルのイノベーション」であります。アジアの繁栄を基本理念としても、企業活動はボランティアではありませんので、その理念を最終的には成果に繋げていく工夫をこらす必要があります。つまり、儲かる仕組みであるビジネスモデルを創り上げていくことです。イノベーションとは、一見無関係に見えるアイデアなどを結び付けて生まれてくるものです。その意味では、歴史や文化などが異なる“アジアはイノベーションの宝庫”であるかもしれません。第三に、「個々人の生き方」であります。最近、働き方改革が論議されていますが、大事なことは、一人一人がどのような生き方をして幸せを掴むかということです。これは人の価値観により違いがありますが、新たなことに挑み、社会の人々の豊かさに貢献していくことの喜びを、日本を含めたアジア、国際社会の中で感じる事が大切であると思います。これからの教育の重要性を痛感いたします。

以上、これからの新たな時代におけるアジアの価値共創を論議・支援、さらにはこの共創を担える人材の育成に向けて、AIBS 学会は積極的に行動していく必要があります。皆様とご一緒に、“アジア価値共創のプラットフォームづくり”に挑んでいきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。